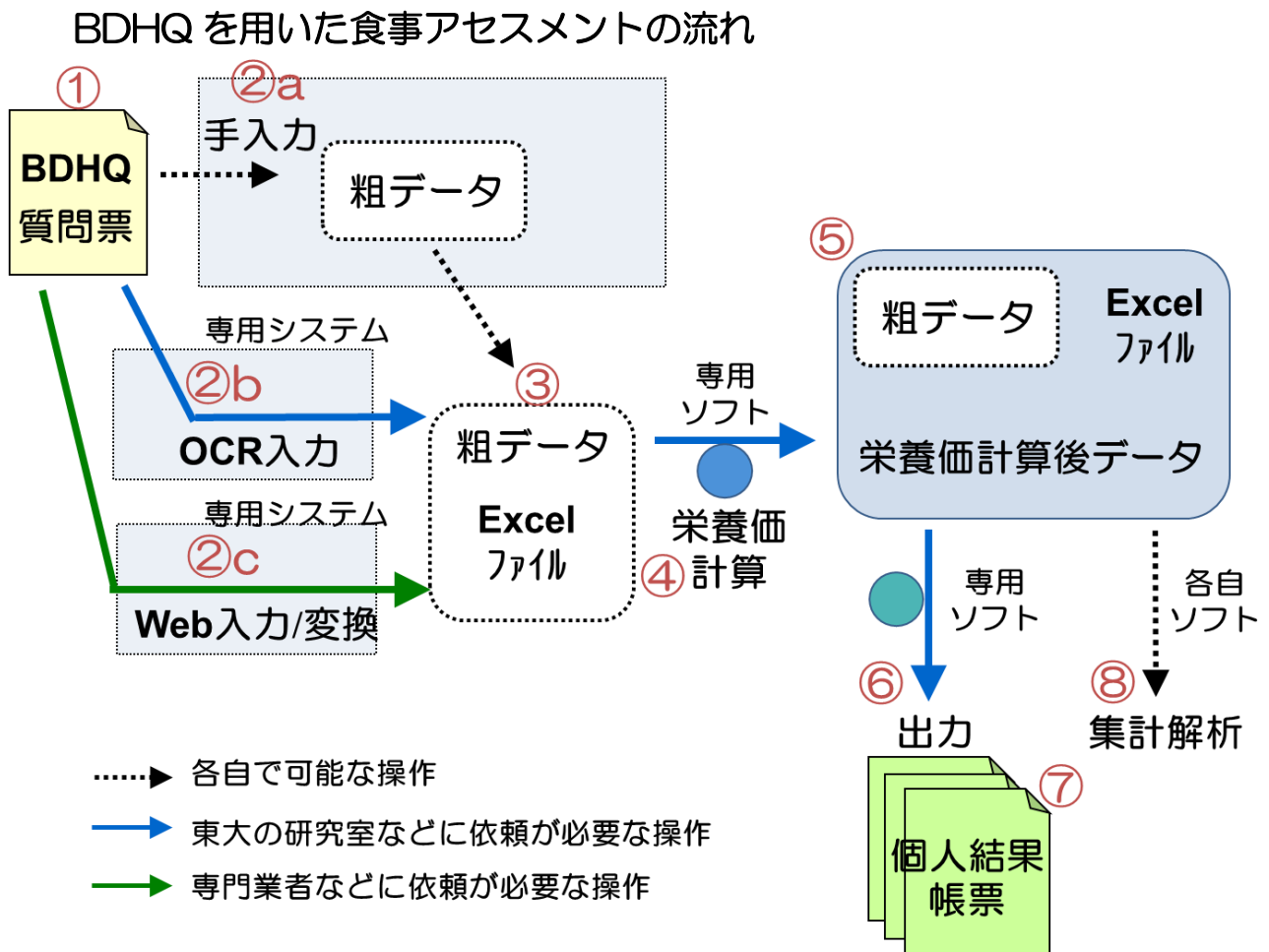


## 食事アセスメントの流れ

### ■全体の流れ

BDHQ を用いて食事アセスメントを実施するにあたり、まずは全体の流れを理解しておきましょう。

食事アセスメントは、(1)食事調査、(2)データ入力、(3)栄養価計算、(4)個人結果帳票出力、(5)集計解析、の5つのステップで実施します。その流れは以下のような図で表すことができます。



以下で5つのステップの内容と、それぞれ図のどこに対応するかを簡単に説明します。それぞれの項目の詳細は本項後半または本項以外の各項で説明しています

## ◆食事調査

### ① BDHQ への回答

回答者へ BDHQ 質問票を配布し、回答済み質問票を回収します。

紙の質問票に回答する場合と、Web の質問票に回答場合があります。

それぞれ、調査の段階で記入漏れを少なくし、正確な回答を得るために、丁寧に調査を実施する必要があります。

## ◆データ入力

### ② 回答内容の粗データ化

回答済み BDHQ の内容をデータ化し、③の粗データを作成します。データ化の方法は以下の 2 とおりがあります。

#### a 手入力によるデータ化（紙の質問票の場合）

手入力用ソフトを用いて BDHQ の回答内容を転記し、Excel ファイルへ変換する方法です。またはソフトを使わずに、規則に従って Excel ファイルのテンプレートにそのまま入力することもできます。BDHQ の回答は該当する選択肢にチェックマークを入れる方法で回答するため、ソフトを使用せず入力するためには、どの選択肢をチェックした場合に、なんという数値を入力すればよいのかという規則が必要です。規則の詳細（変数リスト）は「粗データの概要」の項に掲載されていますのでご参照ください。少人数の場合はこれら手入力による処理が可能です。

#### b OCR 入力システムによるデータ化（紙の質問票の場合）

回答済み BDHQ を専用のデータ入力用 OCR（光化学式カードリーダー）で読み取り、粗データを作成する方法です。専用の設備が必要のため、開発者が所属する研究室などに依頼して行います。研究室では、以下の 2 つの場合に依頼を受け付けています。

(1) 共同研究・共同調査を行う場合

(2) 本学と委託契約を結び、研究室に業務委託を行う場合

具体的には研究室へ個別にご相談ください。

#### c Web 回答のデータ化（Web の質問票の場合）

専用の Web の質問票の画面で回答された内容を、その画面を運営している専門業者により、粗データにする方法です。開発者との共同研究・共同調査を行う場合にのみ可能です。具体的には該当業者に直接お問い合わせください。

### ③ 粗データ

BDHQ の回答内容を、規則に従って数値化し、その結果がそのまま記載されている Excel ファイルのことを粗データといいます。これを見ると、BDHQ に実際にどのように回答したかが分かります。データは 1 シート（Sheet1）のみで構成されています。

## BDHQ 粗データ

	I	J	K	L	M	N
	SEX	BIRTH_G	BIRTH_Y	BIRTH_M	BIRTH_D	DATE_Y
1						
2	1	2	10	3	31	28
3	2	1	10	5	15	28
4	1	2	20	6	17	28
5	2	2	55	9	22	28
6	1	2	35	9	25	24
7						
8						
9						

### ◆栄養価計算

#### ④ 栄養価計算

専用の栄養価計算ソフトを用いて、粗データを計算し、栄養価計算後データを作成します。BDHQ 専用の栄養価計算用ソフトが必要のため、開発者が所属する研究室などに依頼して行います。このステップでも②b の OCR 入力システムによるデータ化と同様、上述の 2 つの場合に依頼を受け付けています（「②b OCR 入力システムによるデータ化」を参照）。

#### ⑤ 栄養価計算後データ

栄養価計算によって、およそ 60 種類の食品や 100 種類以上の栄養素、また主な栄養素に関しては食品群別の摂取量が計算され、粗データのみだったファイルに栄養価計算後データが追記されます。

この操作により、元は 1 シートのみだった粗データシートにさらに 14 シート追加されます（もとの粗データ Sheet1 シートは bdhq1\_1dat シートに名前が変わります）。このデータから各自の食事摂取状況の把握や集団の食事摂取状況の集計解析が可能となります。

## BDHQ 栄養価計算後データ

	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
	BW	PAL	EER	EN	W	WTR	PRT	APRT	VPRT	FAT	AFAT	VFAT
6	55.5	2.0	2187.5	1214.908	1817.719	1539.479	52.05636	36.00	16.05	41.17	26.92	
7	48.0	2.0	1637.5	2725.262	2923.69	2288.956	136.5397	89.88	46.66	62.35	32.71	
8	31.5	2.0	2312.5	2540.972	3266.221	2708.198	104.7555	62.18	42.57	78.53	40.04	
9	50.0	2.0	1984.4	1756.976	2167.36	1778.443	101.1251	70.03	31.09	48.13	29.86	
10	80.0	2.0	2540.0	2059.847	3129.495	2725.941	75.95368	45.52	30.44	55.34	37.27	
11												
12												

### ◆個人結果帳票出力

#### ⑥ 個人結果帳票（結果票）出力

BDHQ は食習慣・栄養素等摂取量を調べるためのシステムですが、それだけでなく、回答者に個人結果帳票（結果票）を返却し、その人の食習慣の改善に役立てていただけることを特長とするシステムで

もあります。BDHQ 専用の結果出力ソフトが必要なため、開発者の所属する研究室などに依頼して行います。このステップでも②b の OCR 入力システムによるデータ化と同様、上述の 2 つの場合に依頼を受け付けています（「②b OCR 入力システムによるデータ化」を参照）。

#### ⑦ 結果票

回答者個人ごとの食事摂取状況をお知らせすることを目的として作成されています。様々な種類があり、すべて A4 両面 1 ページで構成されています。

これらを用いて個人の食事摂取状況の把握と、食事摂取基準の基準値やその他食事のガイドラインの基準値等を比較し、個人の食事アセスメントを行います。それに基づいて食事指導を行うこともできます。

#### ◆集計解析

#### ⑧ 栄養価計算後データの集計解析と分析

集団の食事摂取状況を把握する必要がある場合は、統計解析ソフト等を用いて、データを集計し、分析します。各種栄養素および食品の摂取状況の分布を見るなどして、集団の食事アセスメントを行います。